

海景

原風景を探して辿り着いた庭には
海へ向かう戸口があった

雲は厚く海面に堆積し
息を呑んだまま
彼岸花の赤を吸い寄せる

戸口は数本の樹木に護られ

そこへ到る小径は白い花が風に慄えている

吸い寄せられるように、私はその庭を渡る
瞑想の中に息を潜め
私はその庭を抜ける、戸口へ

その戸口に立つ者は想うであろう
時間という暴力的な略奪者のことを

翡翠の水は
まるで湧き上がるかのように
遠くほど高く聳え、視線を僅か上方に導く

迫り、近づきつつある水平線の向こう側には
おそらく深く切り立った谷がある・・・

私は見た

世捨て人となった神々の生命が
隆々と息づくのを

私の足は岩に貼りついたまま動けない
あの波に呑み込まれるまで

空間の呪縛にうごめき悶え
近づく者——
私はそれを待ち受けている

(2001. 10.9)